

## 第5回医鍼薬地域連携研究会 概要

於：全水道会館 H30.7.2 18:30 - 21:30

司会 上馬場 和夫、赤羽 峰明

(1) 歯科診療における医鍼連携について

福岡歯科統合医療研究所、荻野 杏里先生 スライド発表と実技

(2) 歯科、医科、鍼灸の臨床で役立つオゾン生成器の紹介

橋本歯科クリニック 丹羽祐子

(3) 東方医学会医鍼薬地域連携研究会の新たな方向についての提案

東方医療振興財団理事 赤羽 峰明

---

(1) 歯科診療における医針連携について

福岡歯科統合医療研究所、荻野 杏里先生 スライド発表と実技

福岡歯科医院では、先代の福岡先生の時代に、歯の劇痛が鍼1本（風池への刺入）で瞬時に改善した経験から、歯科診療に鍼灸治療を頻用されている。同じ医療法人内で、歯科医院のそばに統合医療研究所を併設させて、指圧マッサージ師、鍼灸師に、歯科治療前のリラックスをもたらすため、足裏マッサージ（リフレクソロジー）と全身的な鍼治療と顔面から顎にかけての鍼灸治療を行っている。

その結果、首&肩マッサージと足裏マッサージをすると、歯科治療後の治癒が早い、麻酔量がすくなくてすむなどの成果をえている。それがマスコミの注目の的にもなり、テレビでの福岡歯科がたびたび紹介されているという。また、福岡歯科特性の合谷刺激装置を開発されて販売もされている。

### <スライドでの発表>

① 反復する顎関節症の患者へのアプローチの方針として、顎の咬合不正のチェックだけでなく、肩の左右差、足の筋肉の左右差、足底の歪みを調査し、患者自身にも理解をさせて、さらに自宅ではセルフケア(体操や歯の使い方なども)も指導するという方針をとっておられる。

② 口腔外科術後の下歯槽神経麻痺（知覚鈍麻）への治療 2難治症例の紹介

下顎骨の viva 状分断術後状態によって下歯槽骨神経麻痺が出現した症例に対して、60回の星状神経節ブロック 1年間以上でも改善しなかったものが、2週間から数か月間の鍼治療で改善した。また、全身の歪みなども調整するように、鍼灸マッサージによる全身調整も同時に行っているという。なお評価は、VAS と BGORT で行った。

③ 基本的に、大学病院、歯科医、鍼灸師の3者のコラボが必要だと提唱された。

#### ④ 美顔鍼セミナー

最近、福岡歯科を中心として美顔鍼セミナーを開催したところ、歯科医30名が鍼灸をとりいれたいと思っていることがわかったという。鍼灸師10名が、歯科医とコラボを開始することになっており、歯科医と鍼灸師のコラボについて日本での最先端を行っておられた。

#### <実習での発表>

原田 剛君に被検者になってもらい、頭部上方から開口時の顎の動きや咬筋や顎関節の動きなどから、左側の異常が推定された（後になって、原田君は、他の歯科医院で左側の歯の治療をしていたことが判明）。左側の顎関節の周囲の内側&外側翼突筋、咬筋、額二腹筋などを、単刺で丁寧にやさしく筋膜に当たるように、頬車などにさしていかれた。鍼はセイリン製1-2番鍼。刺入深度は、30-10mm。

萩野杏里先生の補助をされていた泉晶先生が、側頭筋へ8番針により透鍼（太陽穴から水平刺や下方にむけて迎香まで透刺）などの方法もあることを紹介された。

上方に気が昇るのを防ぐため、足三里や太衝穴などに鍼を置鍼するという。

合谷への連続刺激器は一時は売れたが、最近、あまり売れていない。

#### (2) 歯科、医科、鍼灸の臨床で役立つオゾン生成器の紹介

橋本歯科クリニック 丹羽祐子

オゾンは、過酸化の酸素のことだが、オゾンについて オゾンは安価に生成でき、反応後は酸素に戻るため残留性なく安心で、除菌・脱臭する分子として知られている。オゾンの分子式は O<sub>3</sub>、つまり、酸素 (O<sub>2</sub>) を原料にして作られる。オゾンは極めて不安定で反応性が高いため滅菌作用を発揮した後、酸素は揮発して環境を汚すことがない。オゾンの抗菌作用とは、「溶菌」と呼ばれ、タンパク質とオゾンが化学反応することで、細菌の細胞壁（膜）が破壊され、細胞内成分が漏れて死亡するため繁殖を防ぐ。そのために、オゾンによる除菌は「耐性菌」ができない。

また、抗炎症作用なども生体には発揮することから、消毒剤としてだけでなく、治療のためにも使えることから、医師・歯科医師、鍼灸師、薬剤師や、さらには一般家庭でも使うことができる。

オゾン生成器は15万円で、オゾン濃度1-3ppm 濃度を維持できる装置が販売されている。医療機関向けには、5ppm のオゾン濃度が理想的だという。

### (3) 東方医学会医鍼薬地域連携研究会(医鍼研)の新たな方向についての提案

東方医療振興財団理事 赤羽 峰明

- **日本東方医学会の特徴**：(東洋医学会、全日本鍼灸学会、日本鍼灸師会などとの違い)  
医師を中心として患者様にとって有益な様々な療法を研究している。前会長の谷先生がよく仰っていた言葉を引用：「非科学では無く、未科学。未だ科学が解明出来ない領域の医療」を実践する実地医家が多数いる学会。  
元々の発祥が、間中善雄先生を中心とした医師向けの鍼灸研究会であった。「医鍼薬地域連携研究会」は、その日本東方医学会内の新しい試みの一環。
- **東方医学会と医鍼薬地域連携研究会(医鍼研)との関係**：東方医学会の活動の一環として医鍼薬地域連携研究会を開催しているため、非会員(1000円/回)と会員(無料)とで参加費を異なる形にした(なお学生は、無料)。
- **医鍼薬地域連携研究会の目的など**…内治・外治として古来より併用されて来た中医薬(漢方)と鍼灸。より質の高い東方(東洋)医学を医師・鍼灸師・薬剤師での地域の医療連携を促進する為の研究会。事例の勉強会・意見交換・ワークショップを開催する。  
東方医学会が運営しているが、東方医学会会員でなくても参加できる。  
参加費…都度会費 1000円(東方医学会会員 0円)  
会長・役員…上馬場・原山・高橋・長瀬、事務局長赤羽峰明  
医鍼薬地域連携研究会に登録すれば、医鍼薬地域連携研究会の名前を使用できる(HP・SNS等)
- **医鍼薬地域連携研究会(医鍼研)規約**
  - ①医療連携に相応しい言動・行動の順守：他の医療を安易に攻撃・批判しない、医療連携の  
阻害となる行動・言動の禁止
  - ②営利を目的とした活動の禁止
  - ③宗教活動の禁止以上を犯した場合、東方医学会から訓告・退会処分を講じられる。
- **日本東方医学会の医鍼薬地域連携研究会との関係性と活動・役割**  
医療機関で働ける鍼灸師の養成するべく、安心・安全・信頼の鍼灸師を教育する。  
その場合、鍼灸師の人材の保証するため、接遇や医療知識・技術を追加教育することで医師と鍼灸師が信頼をもって連携できるようにする。これまで鍼灸師は、医療連携を前提とした学校での教育を殆ど受けてこなかったため、東方医学会が、医鍼薬地域連携研究会の活動を通じて、鍼灸師の医療連携スキルを教育する事が連携を実現するために必要であろう。  
⇒日本東方医学会のホームページなどで、会員鍼灸師の鍼灸院の紹介や、理解のあるクリニックへの紹介・派遣などを積極的に行うことを考えている。

●**医鍼薬地域連携研究会活動の具体的なスケジュール**

◇医鍼薬地域連携の適応疾患の決定

協力・医鍼薬地域連携クリニック & 薬局の登録

医療連携鍼灸師の育成

↓

医鍼薬地域連携のための鍼灸師をクリニックに派遣

◇医鍼薬地域連携研究会のワークショップ開催

●**地域の人達へのワークショップ開催(案)**

例1：世田谷コミュニティ財団：最近クラウドファンディングで設立され財団。

例2：港区いきいきプラザ：港区内の各地域にあり、特に高齢者向けに様々な講座開

催

関心の高いテーマ：健康寿命・長生き・

各疾患(ガン・関節痛・循環器系・各アレルギー等)・子育て・育児

例3：「健康寿命」を延伸させる東方医学

1 時間目 薬剤師…梅雨を元気に乗り越える薬膳

2 時間目 鍼灸師…三里の灸で目指せ 100 歳(実技)

3 時間目 医師 …東洋医学で健康寿命

●**医療連携鍼灸師の医療連携に必要な講座(案)**

鍼灸師育成に必要な知識の習得、医師・薬剤師の東洋医学を理解するための講義

① 中医薬や漢方薬に関する知識…臨床でよく目にする処方(中医学講座内から)

日本東方医学会がこれまで主催している中医学セミナーの受講

② 西洋薬…臨床でよく目にする処方 (NSAIDs、抗圧剤、抗コレステロール薬、安定剤、入眠剤、睡眠薬等について学ぶ。

③ 検査項目…臨床でよく目にする項目(ドック等でよく見かける項目など)の意味について最先端の知識などを学ぶ

谷先生や間中先生も理解されていた「気」の診方などについても勉強会をする。

8月6日 小倉先生の講義、10月1日 佐藤先生の講義

メタトロン：上馬場担当

④ 行動規範…医療連携に必要な鍼灸師の心得・行動・ルール・接遇などを学ぶ。

赤羽担当

各2回 1回3時間 年8日(年24時間)かけて学ぶ

●医鍼薬地域連携のために医師や薬剤師が、鍼灸から学べること:

東方医学会主催鍼灸セミナー、日本胎盤臨床医学会のセミナーを受講してもらう。

- ◇プラセンタのツボ注射：長瀬先生など臨床胎盤医学会とのコラボ
- ◇頭部などの刺絡(ココロケータを使ったり、YNSAなどの理解から)：  
刺絡・上馬場、YNSA・丹羽
- ◇美容鍼の効果と方法(鍼灸師が専門)  
赤羽、北川、唐沢、池野
- ◇地域包括支援システムに関する知識  
介護専門家

●医鍼薬の連携(外治と内治)が必要となる適応疾患

- ◇プラセンタ療法との併用
  - 例1：主訴に応じたプラセンタ注射と身体の吸収能を高める補土鍼灸の併用  
プラセンタの身体への吸収能を高める目的で行う鍼灸。
  - 例2：顔面部へのプラセンタ注射と美容鍼との併用⇒効果的な美容効果
- ◇慢性疼痛など難治性疾患での漢方(内治)と鍼灸・刺絡(外治)の併用  
瘀血による慢性疼痛には、駆瘀血薬と刺絡を併用する
- ◇循環器系疾患での併用
  - 例1：本態性高血圧 中医薬と刺絡(大序・百会・井穴)の併用
  - 例2：のぼせ・ホットフラッシュ 中医薬・プラセンタと刺絡(亜門・百会・ココロケータ等を使用しての頭部刺絡)の併用
- ◇アトピー性皮膚炎での併用：中医薬とかつさ・刺絡の併用で治癒促進
- ◇婦人科・妊活での併用：中医薬とハブ仮説刺絡(大腸兪、関元兪、命門)・置き鍼

(4)今後の方針

毎月第一月曜日6：30-20：30で行う予定。

ネットワークとしてSNSのラインやフェイスブックなどを活用する。

場所：全水道会館 5階

- 30年8月6日 小倉沙羅先生 気診について
- 30年9月3日 原山先生の知っている薬局
- 30年10月1日 佐藤友治先生 FT法について